

第2章	雨温図とハイサーグラフ	学習日	名前
		月 日	

雨温図

棒グラフが降水量、折れ線グラフが平均気温を表す。

右から1月～12月となっている。

降水量のメモリが左、気温のメモリが右にあり、年平均気温と年降水量が表示されているのが一般的。

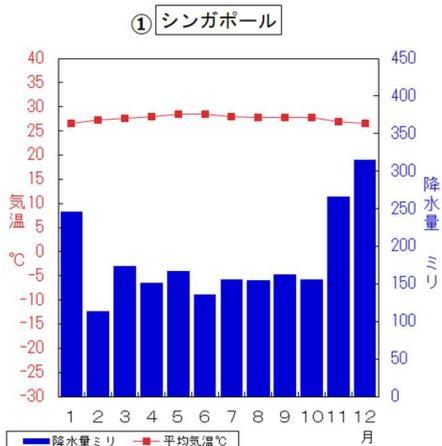
ハイサーグラフ

縦軸が平均気温、横軸が降水量をあらわし、1月～12月をプロットしていく。1～12すべての月が示されていないが、12個の点を追っていけば読み取れる。

右に示したのが、雨温図とハイサーグラフ。両社は同じ機構を示している。

雨温図とハイサーグラフからケッペンの気候区分を読み取る時は、18℃と-3℃のところに線を引いてしまうのがわかりやすい。

また、最暖月平均気温と最寒月平均気温、最大雨月降水量と最小雨月降水量にも印をつけると分かりやすい。

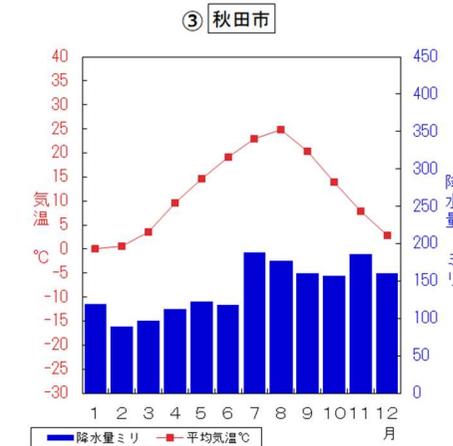
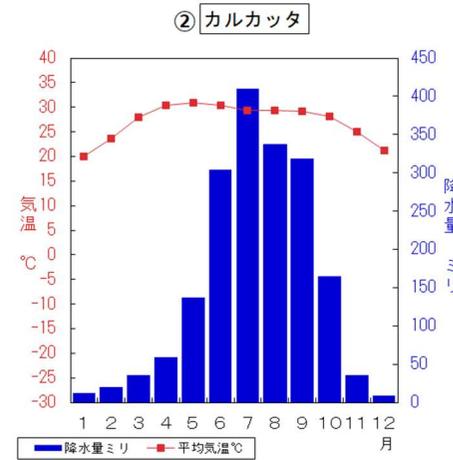
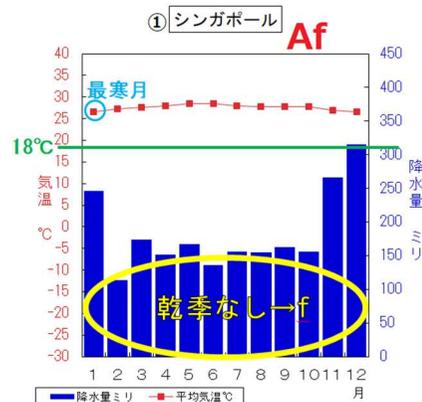
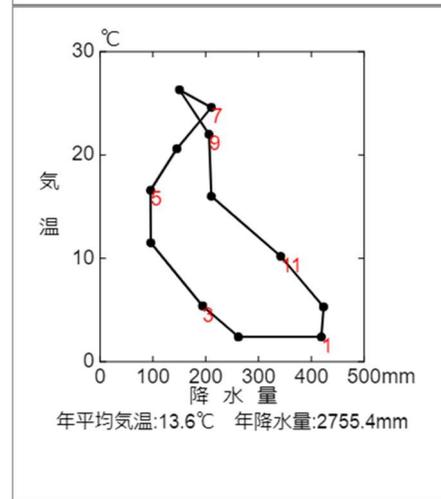
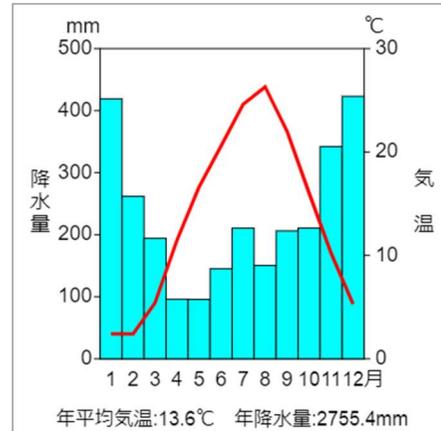


左はシンガポールの雨温図です。ここから気候を考えてみましょう。最寒月平均気温を見てみると、18℃以上です。(A) また、降水量を見ると最小雨月降水量が100mmを越えて

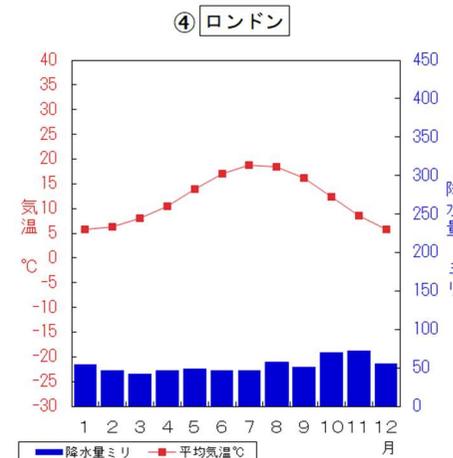
おり、最大雨月降水量は300mm余り。乾季はありません。(f)

よって、Af気候(熱帯雨林気候)となります。

線を書き込んだものが右のもの。意味は分かりますか？



気候は Cfa(温暖湿潤気候)となります。



Cfの時はいかか判定します。最暖月平均気温は22℃未満です。

よって、Cfb気候になります。

左のものがカルカッタ。最寒月平均気温をみると、18℃を上回っています。(A)

降水量は見てすぐわかりますね。乾季があります。A気候で乾季があるのはwしかありません。よって、Aw(サバナ気候)となります。

線を引いたのが右のもの。

18℃と-3℃にひくのがポイントです。(この場合、明らかに-3℃は必要ないので、引いていません)

次は秋田市。

最寒月平均気温は18℃未満、-3℃以上です。(C)

降水量を見ると、乾季はありません。(f)

Cf気候の場合はaとbの区別が必要です。

最暖月平均気温をみると、22℃を越えています。よって、aですね。

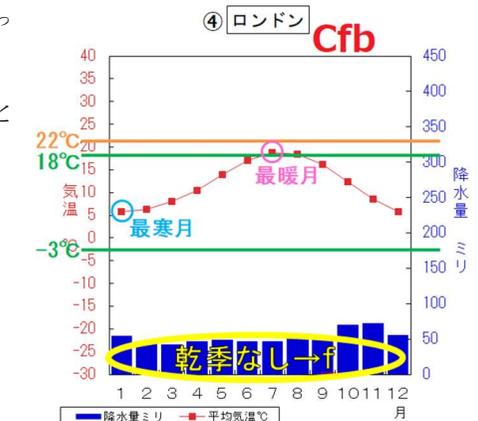
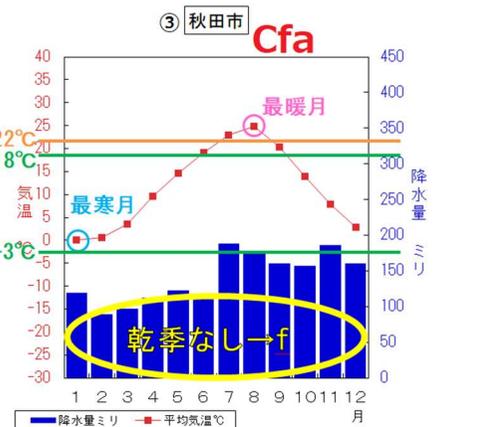
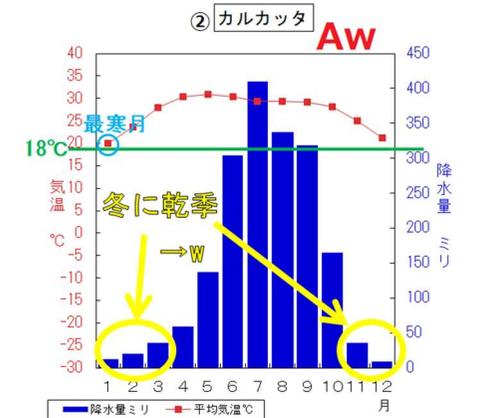
続いてロンドン。

最寒月平均気温は18℃未満、-3℃以上。

降水量を見ると、乾季はありません。毎月50mm以上降っていますから年間降水量は、少なくとも600mmはあると考えられます。したがって、Bということはないでしょう。よって、温帯(C)。

また、乾季がないということは降水の型はf。

よって、Cfb気候になります。



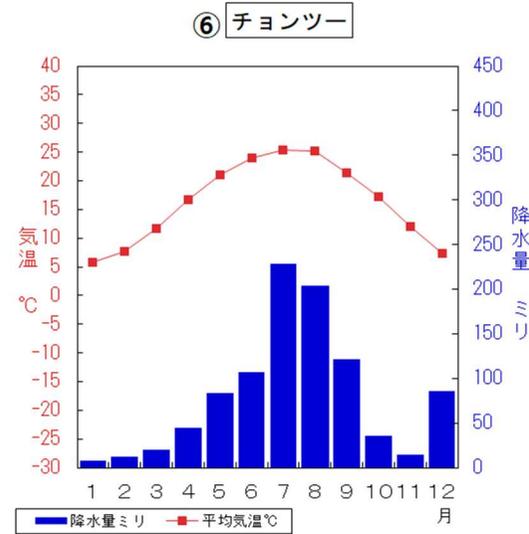
慣れてきましたか？ここからは、線は引きません。

イタリアの首都、ローマです。

最寒月平均気温は18℃未満、-3℃以上。よって温帯(C)。

夏に降水量が少なくなっています。よって、s。

Cs(地中海性気候)となります。



つづいて、チョンツー。中国の内陸部にあり、盆地なので夏熱く冬寒い気候です。麻婆豆腐の本場ですね。

最寒月平均気温は18℃未満、-3℃以上。よってC。

冬に乾季があります。よって、W。

Cw 気候となります。

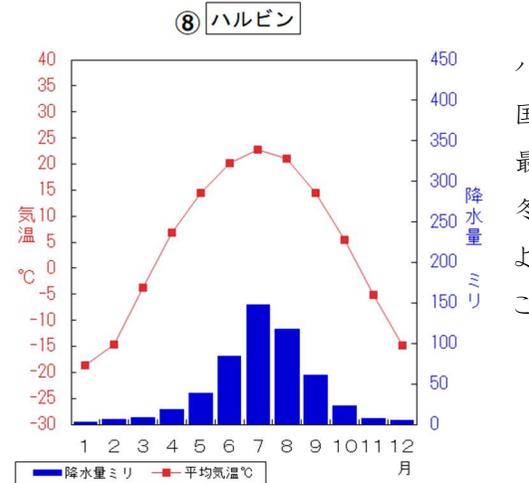
シカゴです。アメリカ第三の都市で、ブルースやジャズのメッカとして有名です。

最寒月平均気温は-3℃未満。よって、亜寒帯(D)。

乾季はありません。よって、Dfですね。

参考書などでは Dfa と出ていることもありますが、以前説明した通りとりあえず abを分けるのは Cf の時だけで大丈夫です。

よって、気候は Df(亜寒帯湿潤気候)となります。



ハルビンです。中

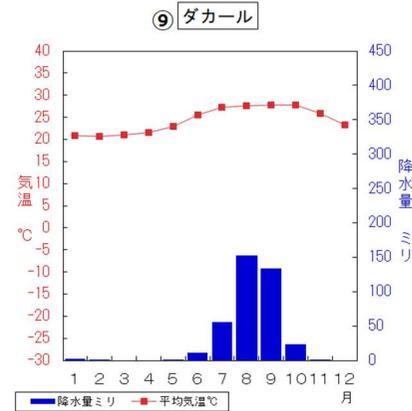
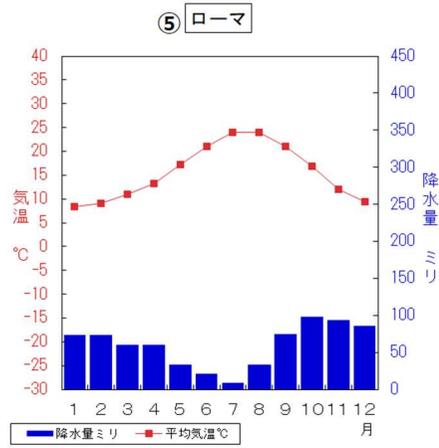
国東部の都市ですね。

最寒月平均気温は-3℃未満。よって、D 気候。

冬に明らかに乾季があります。(w)

よって、気候は Dw 気候となります。亜寒帯冬季少雨気候です。

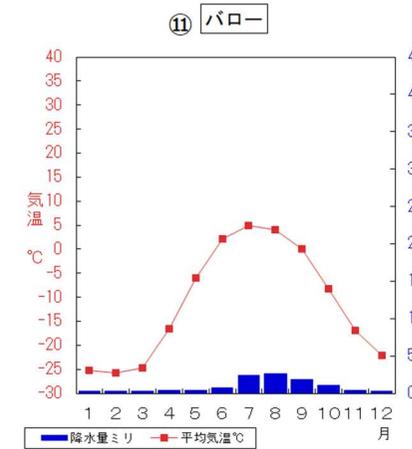
これは中国東北部～ロシアの東シベリアにしかない気候でした。



ダカルです。セネガルの首都で、かつてはパリニダカルラリーというのがありました。(現在も開かれています、ルートが以前と違います。サハラ砂漠を走り回るコースではないようです。)

これは降水量に注目しましょう。150 mm程度の月が2か月。50 mm程度が1か月。あとは非常に少ないですね。これでは、500 mmいかないでしょう。したがって、BS 気候(ステップ)となります。

これだけで砂漠(BW)と判断して大丈夫です。

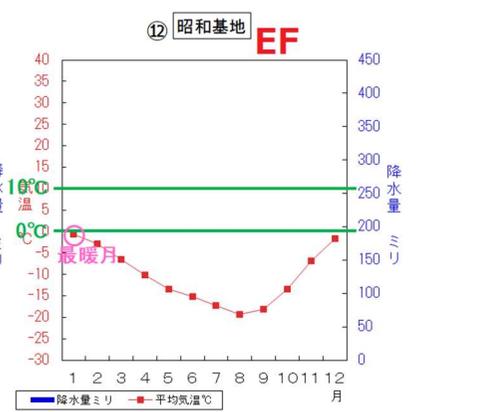
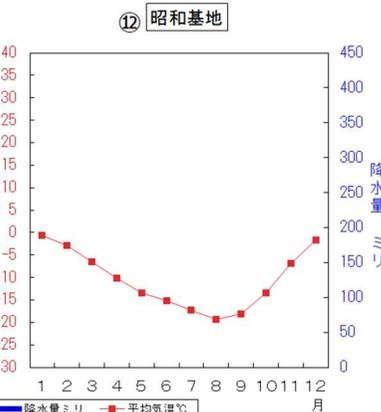
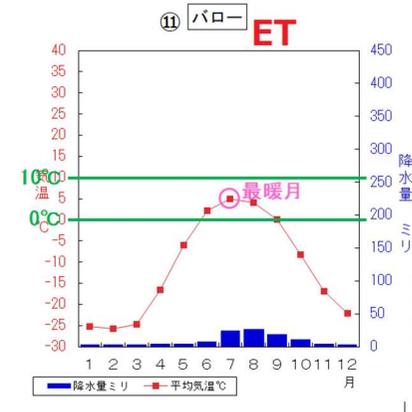


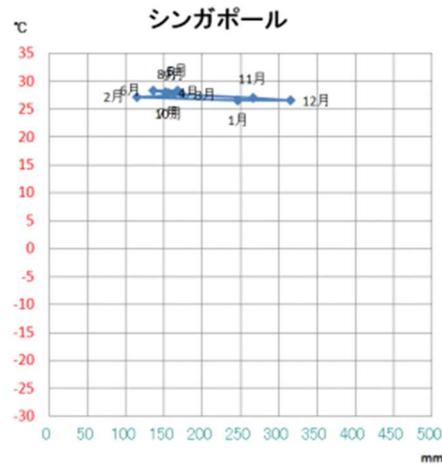
バローです。アラスカにあります。

とても寒そうですね。だから E ではないけません。きちんと考えてください。

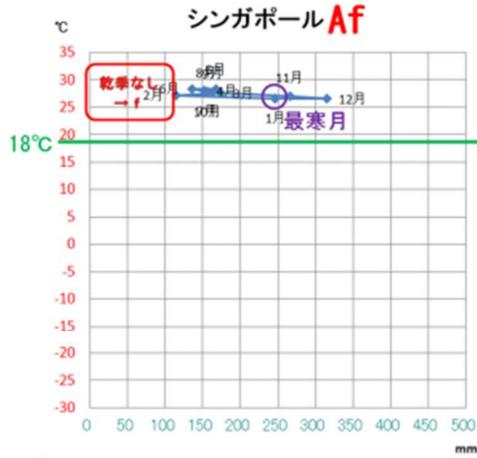
最寒月平均気温は-3℃未満。その時は最暖月平均気温を見ます。10℃未満ですね。よって、ET(ソンドラ)気候です。

これが、最暖月平均気温が 0℃未満になると、EF(氷雪)気候となります。雨温図を挙げておきます。

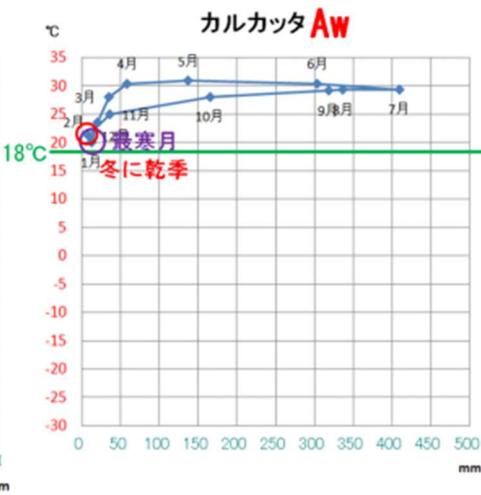
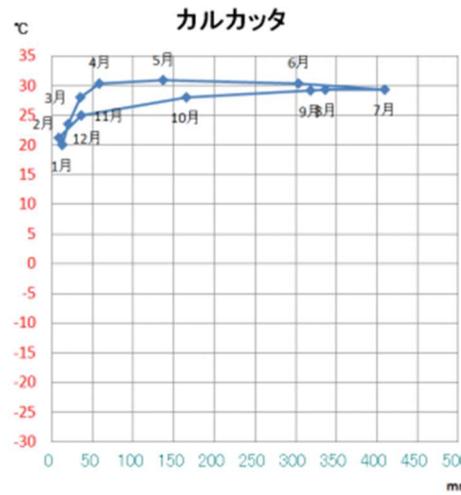




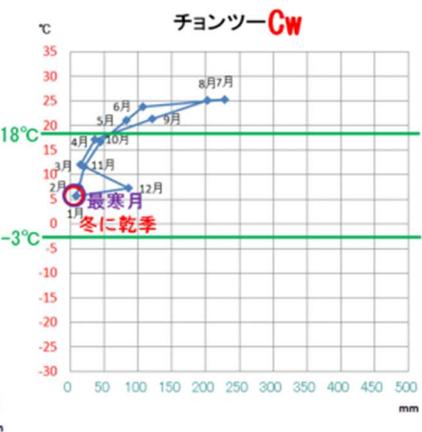
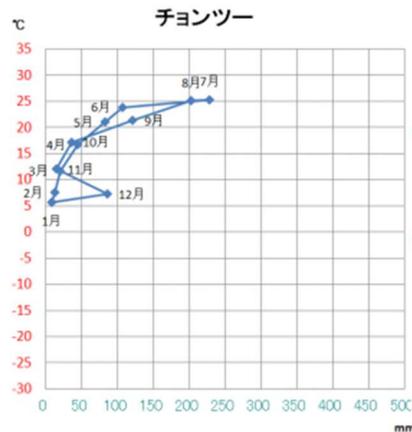
今度は、ハイサーグラフです。雨温図と比べてみてください。  
 まず、18℃と-3℃に線を引きましょう。シンガポールは明らかに-3℃は必要ありません。  
 すべての点が18℃の線の上にあるので、A気候です。  
 次に、縦軸(0 mm)の降水量の線、一番左端の縦線と、一番雨が少ない月の点との間隔を見ます。  
 ここが広いので、乾季がないと分かります。  
 (f)  
 よって、Af気候です。



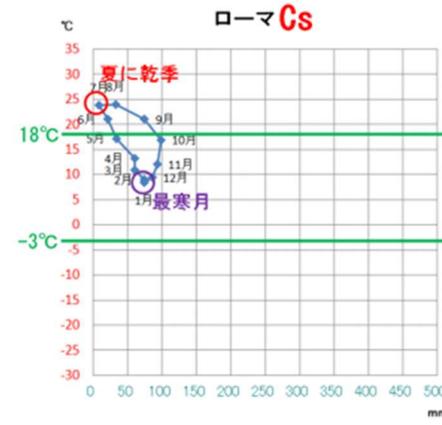
つづいて、カルカッタ。また、18℃の線より上にすべての点があります。よって、A気候。  
 縦軸との空間を見ると非常に狭くなっています。つまり乾季があるということ。したがってAw気候です。



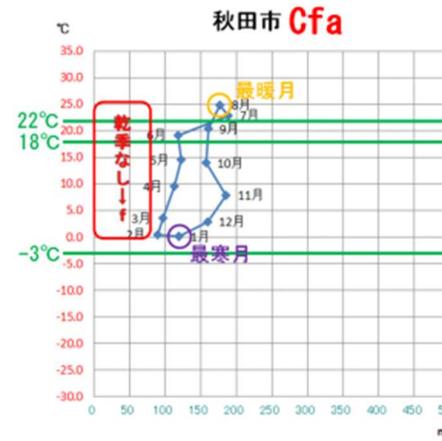
次はチョンツーです。  
 18℃の線より下に点があります。  
 -3℃の線より下には点がありません。  
 したがって、C気候になります。  
 乾季はあります。そして、乾季は冬(気温の低い月)です。(w)  
 よって、Cw気候になります。



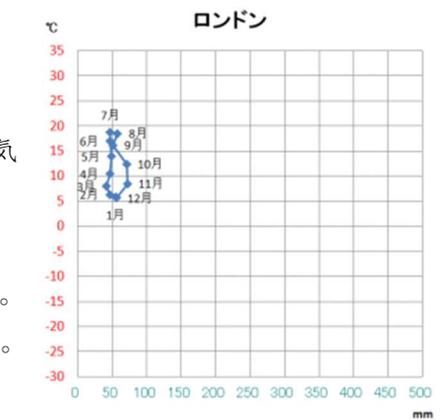
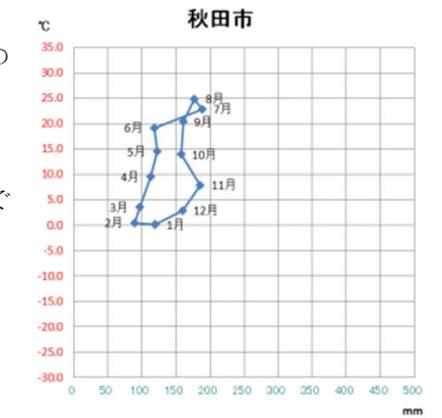
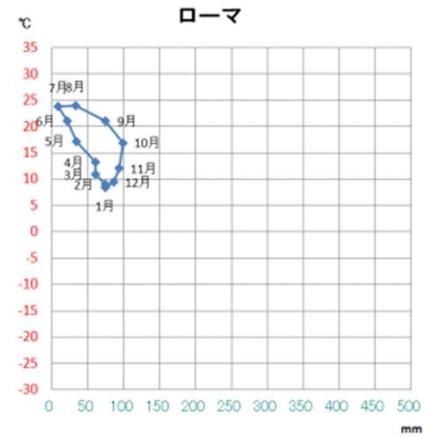
ローマです。18℃と-3℃の日本の線の間には最寒月平均気温があります。よって、C。乾季があります。乾季は上のほうにあります。つまり夏に乾季があるということ。したがって、s。  
 Cs気候となります。



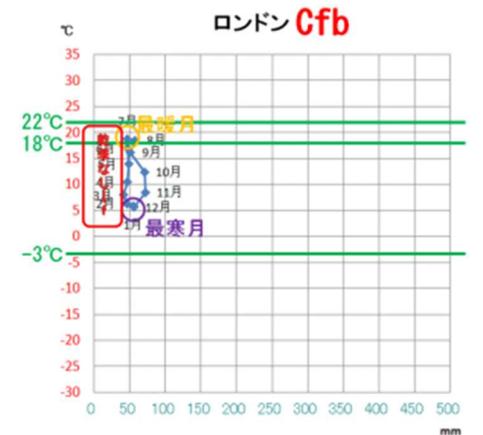
秋田です。  
 最寒月平均気温は日本の線の間です。したがって、C。  
 乾季はありません。したがって、f。  
 Cfの時はaとbの区別が必要です。22℃に線を引いてください。最暖月平均気温はこの線の上にあります。したがって、Cfaとなります。



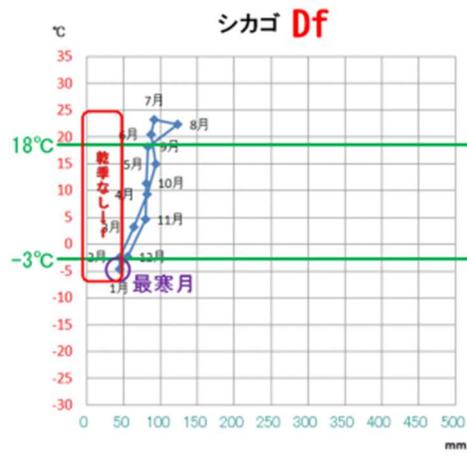
よって、Cfbとなります。



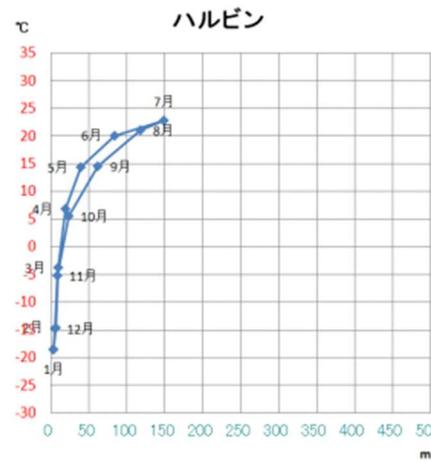
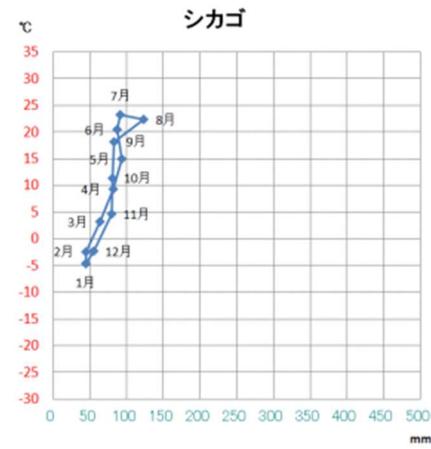
ひたすら同じ作業です。  
 ロンドン。  
 18℃と-3℃に線を引く。  
 2本の線の間には最寒月平均気温があります。よって、C。  
 乾季はありません。よってf。  
 Cfなので、22℃に線を引きます。  
 最暖月平均気温は22℃未満。



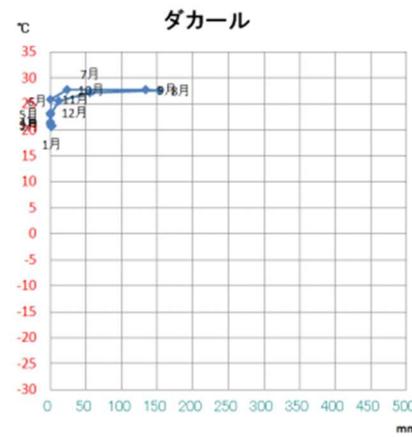
シカゴ。2 本線を引いて、最寒月平均気温が-3℃の線より下です。(こういう時は18℃の線は引いても引かなくても変わらない)。よって、D。  
 乾季はありません。よって、f。  
 Df 気候です。



次は、ハルビン。  
 最寒月平均気温は-3℃未満。最暖月平均気温は10℃以上。よって、D 気候です。  
 明らかに冬乾季となっています。

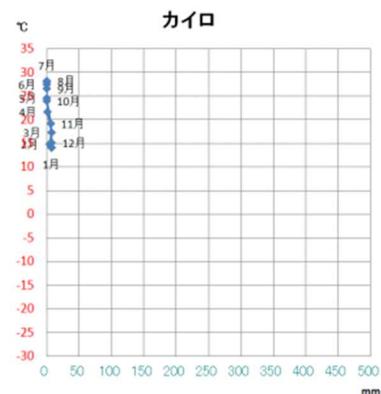


(w)  
 よって、Dw 気候です。

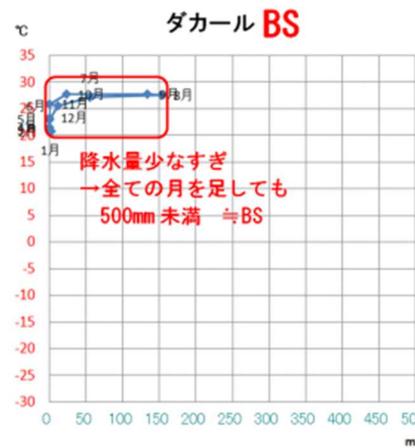


ダカール。  
 Aw と思いがちです。気を付けてください。降水量をすべて足しても500mm いかないですね。  
 BS(ステップ)気候です。

次はカイロ。一目瞭然。乾季しかありません。これだけ雨が少なければBW(砂漠)気候です。



B 気候は降水量だけ見れば大丈夫です。  
 線を引いたハイサーグラフは...なくても大丈夫ですね。



パローです。  
 最寒月平均気温が-3℃の線より下にあります。  
 最暖月平均気温を確認してください。10℃以下です。そうしたら ET(ツンドラ)ですね。

EF(氷雪)気候は降水量のデータがありません。よって、ハイサーグラフはありません。(もししたら、存在するけれども青山がみたことがないだけかもしれません)。  
 もし、でてきたら、最寒月平均気温が-3℃未満。そして、最暖月平均気温が0℃未満。日本の線を引けばできるはずです。

グラフからケッペンの気候区分を判別する方法をずらずらと書いてきました。同じことの繰り返しでしたが、やることは変わりません。

最寒月平均気温 18℃、-3℃  
 これで、A、C、DE を判断します。

A の時は乾季があるかないかで Af、Aw を判定

C の時は乾季があるかないか、その季節で Cf、Cw、Cs を判定。

Cf の時は最暖月平均気温で Cfa、Cfb を判定

DE の時は最暖月平均気温で D か E かを判定。

D の時は乾季があるかないかで Df、Dw を判定。

E の時は最暖月平均気温で ET、EF を判定。

授業で説明した判定方法そのままです。これをグラフでやったのが今回配布したプリントです。  
 一つ一つ丁寧に復習してみてください。  
 そして、テストでも丁寧に判定してください。

